

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 南丹市液肥利用協議会
都道府県 京都府
対象地域 南丹市八木町地区
対象品目 小麦、小豆、水稻



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

- * 全国的な肥料の高騰や、環境負荷の低い農業への転換の必要性などの課題がある中で、地域資源として八木バイオエコロジセンター（YBEC）のメタン発酵消化液肥を活用しグリーンな栽培体系の確立を目指しています。消化液を最大限に活用できる、水稻・小麦・小豆のブロックローテーションのマニュアル作成と普及を目指しています。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	小麦、小豆、水稻それぞれで栽培ごよみ通りに作付け・施肥・防除を実施												
技術名	環境にやさしい栽培技術については、各農家の判断で実施、ブロックローテーションは行っていない												

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	1年目								小麦播種				
	2年目	収穫			小豆播種				収穫				
	3年目		水稻田植え					刈取					
技術名	1年目							基肥					ブロックローテーションで栽培 基肥は消化液肥を利用することで化学肥料の使用量を低減
	2年目	実肥		基肥									
	3年目	基肥			追肥								

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R4	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	10	10	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	10	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	10	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	10	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料の施用	メタン発酵消化液の施用 (基肥および一部追肥)	化学肥料の低減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の低減（対象圃場の小麦基肥）	1	0	麦コート・麦元気一発→消化液肥
環境	化学肥料の低減（対象圃場の小豆基肥）	1	0	豆蔵→消化液肥
環境 省力	化学肥料の低減（対象圃場の水稻基肥）	1	0	有機入りセラコート→消化液肥
省力	散布車による液肥散布	現状から作業時間を 10aあたり10～23分程度短縮		ブロードキャスター等による施肥→消化液肥散布
省力	ブームスプレーヤーによる赤かび病防除同時尿素散布	現状から作業時間を 10aあたり10～56分程度短縮		防除と施肥を別個に実施→同時に実施

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

実証等で、化学肥料と同等の効果があることを示す他、マニュアルや栽培ごよみの作成を行い普及を進めます。
また、ヒアリング等で慣行栽培との作業時間の差（省力化の効果）やコストメリットなどを把握し、普及の際の資料とします。

関係者の役割

関係者名	南丹市/YBEC	南丹農業改良普及センター	JA	専門家
役割	液肥の提供	栽培試験、栽培ごよみの作成等	農作物の流通管理等	実証指導、散布技術指導等

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

液肥利用農産物の付加価値アップのため、液肥栽培農産物の認定制度を作る計画です。
また、パンフレット等を作成し消費者理解の醸成を図ります。

その他